

第1章 事例紹介

1. 郷土を育てる ～地域資源再発見、未来につなぐ郷土づくり～

事例 01：小山駅東西の回遊化、活性化 （小山市ボランティア支援センター運営委員会 × 小山市）	08
事例 02：再生可能エネルギーである温泉熱利用促進と 温暖化対策地域協議会創設の薦め （那須温泉地球温暖化対策地域協議会 × 栃木県）	10
事例 03：自然環境保全推進事業 （佐野市環境ネットワーク会議 × 佐野市）	12
事例 04：宇都宮市における新しい環境共生型ライフスタイルの提案 （NPO 法人宇都宮まちづくり市民工房 × 宇都宮市）	14
事例 05：リピーター創出事業 ～那珂川町の交流人口増加に向けて～ （那珂川町観光協会 × 那珂川町）	16
事例 06：とちぎの農村景観と食文化を素材とする ルーラルツーリズムの基盤づくりと実践策 （とちぎ協働デザインリーグ × 栃木県）	18
事例 07：とちぎの食と景観を活かした地域づくり （まんま共和国 × 栃木県）	20
事例 08：壬生町干瓢生産振興推進事業 （壬生町干瓢生産流通推進協議会 × 壬生町）	22
事例 09：わがまちへの誇りと郷土愛の醸成事業 （姿川地区まちづくり協議会 × 宇都宮市）	24
事例 10：新市の一体感の醸成 （NPO 法人ハイジ × 栃木市）	26
事例 11：下野市の文化保護活用事業 （下野薬師寺ボランティアの会 × 下野市）	28
事例 12：「はにしの里」歴史遺産保護事業 （はにしの里自然塾 × 壬生町）	30
事例 13：懐かしい“ふるさと とちぎ” 回想事業 （下野民俗研究会 × 栃木県）	32

小山駅東西の回遊化、活性化

小山市ボランティア支援センター運営委員会 × 小山市



小山評定の地散策の様子

事業目的

本事業は、小山駅東西の地域住民や利用者等が小山駅の東西を行き来する人の流れをつくり、小山駅周辺の回遊化、活性化を推進することを目的としました。

実施までの経緯

小山駅東口には、小山市民の生涯学習の場である白鷗大学東キャンパスがあり、小山駅西口は、中心市街地活性化を目的とする再開発ビル「城山・サクラ・コモン」が建設され、その2階には、市民活動の拠点である「まちなか交流センター おやま〜る」がオープンしました。また、平成24年6月に小山駅の東西を結ぶ小山駅東西自由通路「さくら道」が完成し、各地域が連携して駅周辺の回遊化、活性化を図ることを目的としました。

■実施期間

平成24年7月～平成25年3月

■事業費：1,095千円

■プラットフォーム構成機関（団体名等）

小山市ボランティア支援センター運営委員会、おやま西口まつり実行委員会、いいとこ教え隊おやままちなかボランティアガイド、未来創造ネットワーク白鷗

具体的な事業内容

小山市ボランティア支援センター運営委員会と小山市を中心にプラットフォームを構成し、市民が小山駅東西で行われる各種イベントなどを通じ、駅の東西を回遊することを促し、駅周辺地域の活性化を図るための以下の事業を企画、実施しました。

1. 講演会

平成24年10月21日に白鷗大学東キャンパスホールにて三遊亭らん丈氏を講師に「仲間はずれを出さなかった江戸っ子」というテーマで講演会を開催しました。当日は100名の方にご来場いただきました。

2. 小山評定の地散策

上記の講演会にあわせて、43名の方に参加いただき、駅周辺の史跡散策会を開催しました。案内役はいいとこ教え隊おやままちな

かボランティアガイドさんをお願いしました。

参加者は、駅東地区にある白鷗大学東キャンパスから小山駅中央自由通路を經由し、駅の西側に位置する小山御殿跡（※1）と小山評定跡（※2）を散策しました。散策終了後は、講演会と同時開催されていたうどんまつりなどを楽しみました。

※1 徳川将軍家が日光東照宮を参拝する際の休憩・宿泊所として設けられたもの。

※2 「天下分け目の関ヶ原の戦い」において、徳川家康が率いた東軍が下野国小山に本陣を置き、諸将を招集して軍議を開きました。この軍議が東軍に結束をもたらし、勝利に道筋をつけることとなりました。

事業を進める上での工夫

小山駅西口で同日開催された「おやま西口まつり」や「おやま開運まつり」などの多くのイベントにあわせて、東口の白鷗大学東キャンパスで三遊亭らん丈氏の講演会を実施し、東西のイベント両方に参加できるように各実行委員会と調整をしました。また、ポスターやチラシ等で呼びかけることで多くの参加者を募り、イベントに来場してもらうことによって、小山駅周辺の回遊化や活性化につながると考えました。

事業の成果と活用

地元を愛し、発展させたい思いで活動をされている東京都町田市議会議員で落語家の三遊亭らん丈氏の講演会を通じて、「人と人とのふれあいや協力しあうことが、結果として市民協働の第一歩になる」ということを学びました。また、講演会当日に多くのイベント等を盛り込んだことで、目標としていた地域の回遊が促進され、地域の活性化につながりました。

小山駅西口で開催された「おやま西口まつり」（主催：おやま西口まつり実行委員会）、「おやま開運まつり」（主催：おやま開運まつり実行委員会）、「開運小山うどんまつり」（主催：開運小山うどん会他）、「ハンドベルフェスタ in OYAMA」（主催：ハンドベルフェスタ in OYAMA 実行委員会）、「子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー」とポスターを相互に掲載するなど、協働への新たな一歩を踏み出すことができました。また、講演会時に配付した「イベントガイドマップ」については、回遊をするにあたり、参考になったと好評でした。多くの参加者が、東口から西口へ移動し、配付した共通商品券を使用しました。実施アンケートによると、参加者には高評価をいただいております。改善、発展させるべき点もありましたが、回遊化、活性化の端緒を開くことができました。

■問合せ先：小山市市民生活課 市民協働推進係

・住所：〒323-0025 栃木県小山市城山町3-7-5

・電話：0285-20-5561（代表）

再生可能エネルギーである温泉熱利用促進と 温暖化対策地域協議会創設の薦め

那須温泉地球温暖化対策地域協議会 × 栃木県



温泉熱の有効利用セミナーの様子

事業目的

本県には、鬼怒川、那須、塩原、日光など温泉資源が豊富にあります。これまで未利用であった温泉の余熱や排湯熱を、給湯や床暖房などに有効活用することは、灯油や重油等の化石燃料の使用量削減により、地球温暖化の原因とされる温室効果ガス（CO₂）の削減や、温泉の価値の向上にもつながると期待されます。そこで、再生可能エネルギーである温泉熱の利用拡大を図ることにより、地球温暖化の防止に寄与することを目的としました。

実施までの経緯

那須町で多く利用されている、温泉熱利用技術を、他の温泉地にも広げ、エネルギーの地産地消を促進することにより、温泉事業者の経営改善及び集客アップが期待できます。

■実施期間

平成 24 年 8 月～平成 25 年 2 月

■事業費：3,008 千円

■プラットフォーム構成機関（団体名等）

那須温泉地球温暖化対策地域協議会、栃木県地球温暖化防止活動推進センター、(株)ネクスパ、(株)ヤマト栃木支店、那須町（観光商工課）、栃木県（地球温暖化対策課）

また、温泉熱の有効利用は、東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故によるエネルギー供給の不安定化にも対応できると考えられます。

そこで、温泉関係者を対象とした「温泉熱の有効利用セミナー」や「先進地調査会」等、温泉熱利用促進に向けた働きかけを行うこととしました。

具体的な事業内容

ヒートポンプ（熱媒体や半導体等を用いて低温部分から高温部分へ熱を移動させる技術）の活用や、バイナリー発電（地下から取り出した蒸気・熱水で、水より沸点の低い液体を加熱・蒸発させ、その蒸気でタービンを回し発電する技術）等の普及により、温泉熱のさらなる利用拡大を図るため、セミナーや先進地調査、啓発冊子の配布、戸別訪問等を実施

しました。

1. 温泉熱の有効利用セミナー

温泉熱利用機器導入プランや支援制度等の紹介、温暖化対策地域協議会の設立の提案を目的に県内5市町（宇都宮市、日光市、那須塩原市、那須町、那珂川町）6会場で「温泉熱の有効利用セミナー」を開催し、延べ121名の方に参加いただきました。

2. 先進地調査会

那須町的那須温泉（テーマ：温泉熱利用施設の見学）とバイナリー発電システムを開発している神奈川県横浜市のアルバック理工（株）（テーマ：温泉熱を利用した発電システムの見学）の2箇所を見学しました。実際に導入し稼働している機器や施設を見学することにより、温泉熱の利用が、省エネ・省コストにもつながることを実感することができました。本調査会には、延べ43名の方が参加されました。

3. プラットフォーム構成員による会議

（定例会：3回開催）

セミナー及び先進地調査会の企画・運営については、那須温泉地球温暖化対策地域協議会が中心となって提案し、定例会において、セミナー及び先進地調査会の実施方法等を協議・決定しました。

立案、実施、点検、見直しを随時行いました。また、セミナーについては、温泉地を中心に複数回開催するようにし、先進地調査については、本県で導入可能なバイナリー発電機等の調査を行いました。

事業の成果と活用

本事業で実施した「温泉熱の有効利用セミナー」や「先進地調査会」に延べ164名の方が参加し、温泉熱利用の効果や方法などについて知っていただくことができ、また、地域で温泉熱利用に関して調査・検討する地域協議会の設立について、働きかけを行うことができました。

プラットフォーム構成員は引き続き、温泉関係者に対し温泉熱利用の普及拡大と化石燃料の使用量削減による温室効果ガスの削減を働きかけ、併せて温泉地における地域協議会の設立や源泉所有者、民間事業者によるバイナリー発電の導入を支援し、栃木県全域に温泉熱利用を広めていくこととしています。

事業を進める上での工夫

プラットフォーム構成員による事業の計画

■問合せ先：栃木県 地球温暖化対策課

・住所：〒320-8501 栃木県宇都宮市塙田1-1-20

・電話：028-623-3187

自然環境保全推進事業

佐野市環境ネットワーク会議 × 佐野市



環境保全活動の様子

事業目的

本事業は、佐野市の豊かな自然環境の保全推進を図り、市民参加のもと、できる人ができることから自然環境の保全のために行動するきっかけとすることを目的として実施されました。多様な主体間で構成される佐野市環境ネットワーク会議が主体となって、地球温暖化防止や3R、地域の自然を学ぶイベントや学習会等と不法投棄ごみやポイ捨てごみ回収の美化活動等を企画・実施しました。

実施までの経緯

市の環境行政との協働による取組を進めるにあたって、同会議の運営委員会で事業内容を検討した結果、様々な環境に関するテーマの中から誰もが参加できる美化活動をメインに取り上げることとしました。併せて環境に

■実施期間

平成23年11月～平成25年3月

■事業費：1,068千円

■プラットフォーム構成機関（団体名等）

NPO法人安佐グラウンドワーク、NPO法人エコロジーオンライン、EMエコの会・佐野、佐野観光ボランティア友の会、(株)アティク、(有)オストコーポレーション北関東、住友大阪セメント(株)、栃木県砕石工業協同組合、栃木県石灰工業協同組合、(株)ダイセキ、みかも森林組合、個人17名、佐野市（環境政策課）

関するイベントやセミナー、講座等を連動することにより、より効果的な環境啓発を行うこととしました。

具体的な事業内容

1. 先進地視察

東京都のNPO法人すぎなみ環境ネットワークの視察を行い、本事業の実施や本会議の組織運営を行う際の参考としました。

2. 「地球温暖化防止」推進のための環境イベント「クールアースデー in SANO」

平成24年7月1日佐野駅前交流プラザぱるぽーと周辺で開催しました。会場では、地球温暖化防止に関するエコブース等を企画・運営し、環境に関する意識啓発を実施しました。また、特別セミナーとして「森林（もり）の可能性を探る」と題して、森林資源の有効利用などについて、宮城県登米町森林組

合の竹中雅治氏より講演をいただきました。

3. こどもの国環境エコ教室

佐野市こどもの国こどもの森の工作教室にて、EM 菌を利用した泥団子づくりから水の大切さを学ぶ「魔法の泥団子教室」と森の資源を利用した「親子木工体験教室」を開催しました。

4. 再生可能エネルギー講演会

「原発を選ばなかった国・デンマークに学ぶエコスタイル」と題し、ジャーナリストのニールセン北村朋子氏に講演をいただきました。また市内で環境啓発活動等に取り組む女性の皆さんとパネルディスカッションを行いました。

5. 再生可能エネルギーワークショップ

午前中は住友大阪セメント(株)栃木工場の木質バイオマス発電施設を見学し、午後は、みかも森林組合において、千葉大学大学院教授の倉阪秀史氏と同大学院講師の馬上丈司氏をお招きして、「地域主導のエネルギー革命」と題して講演をいただきました。その後、参加者をグループに分けてワークショップを行いました。

6. 「3R」推進のための環境イベント”もっ たいないフェア さの”

再生可能エネルギー推進のための「市民発電所を作ろう」セミナーや、「みかも山の自然を学ぼう」^{くでしゅう}「組手什を使用した親子木工教室」講座を開催しました。

7. 唐沢山美化活動

唐沢山県立自然公園においてハイキング及び登山口美化活動を実施しました。

8. 協働事業のフォローアップ

協働事業の成果等をホームページで情報発信し、自然環境の保全に対する意識啓発を図りました。

事業の成果と活用

これまでの環境行政は行政主体でしたが、本事業では、本会議が主体となって企画・運営に当たりました。本市の豊かな自然環境の保全を推進するためには、自然環境を学んだり美化活動に参加する機会を設けるほか、地球温暖化防止や3Rの推進等も重要であると考え、環境に関するイベントや講座等を多数開催しました。

こうしたイベントや講座、美化活動に多くの市民が参加し、自然環境の保全のために行動するきっかけとなったのではないかと考えています。また、本会議の活動が活性化し、認知度も上がり、会員増加にもつながるなど、今後の組織運営にもつながりました。

今後も、引き続き本会議主体の企画、運営を行いながら、会員増加を図るなどして安定的な組織運営を目指し、市と連携しながらも本会議の特色を活かした活動につなげていきたいと考えています。

■問合せ先：佐野市環境政策課

- ・住所：〒327-0398 栃木県佐野市田沼町974-1
- ・電話：0283-61-1155

宇都宮市における 新しい環境共生型ライフスタイルの提案

NPO法人宇都宮まちづくり市民工房 × 宇都宮市



活動の様子

事業目的

東日本大震災発生により、これまで平穩に過ごすことができた都市生活の場や身近な居住環境が、広域的な災害時には非常に脆弱であることが顕在化しました。その結果、従来の経済活動優先、効率第一主義に基づく社会から、環境と共生した持続可能な社会への転換が、関心を集めつつあります。このような転換期だからこそ、宇都宮市における新しい環境共生型ライフスタイルを提案することが重要であると考え、本事業では、市民意識の醸成や地域ニーズ把握の取組を通じた提案を行いました。

実施までの経緯

環境を配慮した住民の暮らし方や様々な取組の意識が高まり、太陽光パネルの設置や低

■実施期間

平成23年11月～平成25年3月

■事業費：1,150千円

■プラットフォーム構成機関（団体名等）

NPO法人宇都宮まちづくり市民工房、宇都宮大学、トヨタウッドユーホーム(株)、宇都宮市（みんなでまちづくり課）

炭素型住宅地など、企業を中心に、ハード面を重視した取組が進んでいる中、このプラットフォームのメンバーで、どのような提案ができるのか（方向性・到達点）について考える時間に大半を要しました。

具体的な事業内容

NPO 法人宇都宮まちづくり市民工房は、平成 22 年から、トヨタウッドユーホーム(株)、宇都宮大学と協働で、「宇都宮におけるエコな暮らしを考える」をテーマに事業を実施しました。その後も継続する予定でしたが、東日本大震災により中断してしまい、平成 24 年度に再開しました。再開するにあたり、NPO 法人宇都宮まちづくり市民工房と宇都宮市が中心となってプラットフォームを形成し、環境と共生した持続可能な社会を実現するため、地域の特性を考慮した環境共生型ライフスタ

イルの提案を行いました。

1. 勉強会の開催

先進事例として、低炭素エコタウン「エコライフスクエア三島きよすみ」や東京都府中市にある「長寿命環境配慮住宅モデル事業『園路がつむぐ庭物語』ソーラータウン府中」などの見学をしました。また、「里山長屋暮らしの藤野プロジェクト」や「横浜 MINA GARDEN」等、環境に配慮した取組について勉強会を開催しました。併せて環境に配慮したエネルギー自立型の住まいづくり・まちづくりについて、建築分野やコミュニティ分野の専門家の方を講師に、基調講演やパネルディスカッションを行いました。さらには、宇都宮の特性や地域性を考慮したエコな取組についてワークショップを通して意見交換を行いました。

2. ワークショップの開催

住宅模型や省エネ機器を利用したテーマごとのワークショップを実施しました。

3. モデルCG製作

環境共生モデルを分かりやすく見せるためのCGを制作しました。

4. シンポジウム（成果発表会）の開催

環境共生型ライフスタイルを提案するシンポジウムを開催し、住宅地における環境に配慮した設備利用、シェアリング、コミュニケーション空間を利用した取組など、宇都宮らしさを踏まえた調査・研究の成果を発表しま

した。

事業を進める上での工夫

プラットフォームには、大学・企業・NPO・行政の4者が参画し、大学の持つ先駆的な研究内容や学会等のネットワーク、学生の若い力、企業の持つ専門的・実践的な知識、NPOの持つコーディネート力など、それぞれの持ち味を十分に活用しました。また、環境に配慮した暮らし方の中に、「宇都宮らしさをどのように出すか」「誰にでもできる取組であるか」「地域のコミュニティの発展を目指せるか」を考慮した提案になるよう工夫しました。

事業の成果と活用

勉強会やワークショップを通じて、多くの方と意見交換を実施したことにより、環境（エコ）について考えるよい機会となりました。また、宇都宮の特性や地域性を生かし、新たな住宅地を想定した環境と共生した取組として、これから目指すべきライフスタイル（自立電源付集会所、農園・菜園、コミュニティ空間の活用など）をまとめ、提案することができました。

今後は、プラットフォームメンバーの広報機能を十分に活用し、住民の環境に対する意識醸成につなげることにより、多くの方々の環境に関する意識・知識が高まることを期待しています。

■問合せ先：宇都宮市みんなでまちづくり課

・住所：〒320-8540 栃木県宇都宮市旭1-1-5

・電話：028-632-2287

リピーター創出事業 ～那珂川町の交流人口増加に向けて～

那珂川町観光協会 × 那珂川町



那珂川ぶらっとクーポンとチラシ

事業目的

那珂川町には、馬頭温泉郷や美術館（もうひとつの美術館、広重美術館、いわむらかずお絵本の丘美術館）、清流那珂川に代表される自然など、多くの地域資源を有しています。那珂川町の魅力を再発見し、それを発信することで、町の良さを知ってもらい、町を訪れる人を増やすことが重要となります。

そこで、本事業を通じ、確実にリピーターを増やすとともに、定住につなげるため、平成23年比で観光客入込数5%増を目標に掲げ、事業に取り組みました。

実施までの経緯

近年、那珂川町における観光客入込数は減少しています。景気低迷による旅行離れも増えている中、観光客が求めるニーズは年々多

■実施期間

平成23年9月～平成25年3月

■事業費：1,237千円

■プラットフォーム構成機関（団体名等）

（公財）栃木県産業振興センター、那珂川町観光協会、那珂川流域活性化連絡協議会、星の見える丘農園、那珂川町商工会青年部、富山舟戸いわうちわ保存会、金谷郷づくり会、ボランティア盛谷協議会、NPO法人山野草保存会、久那瀬農地水環境保全会、那珂川町（商工観光課、農林振興課）

様化し、そういったニーズに的確に応えるためには、さらなる工夫が必要です。

那珂川町観光協会と那珂川町を中心にプラットフォームを構成し、那珂川町の交流人口増加に向けて協議検討を重ね、協働事業を企画・実施しました。

具体的な事業内容

1. 花事業

那珂川町は季節ごとに花や山野草を楽しめる街であり、それぞれの団体がその維持管理に努めています。しかし、一方で、来町する方にとっては、目的地の位置関係がわかりづらく、不便をきたしていました。それらの課題を解消すべく、花の見どころ（カタクリ、岩団扇、ポピーなど）を掲載したパンフレットを作成しました。また、一緒に食事を楽しんでもらうために、八溝蕎麦を取り扱う店舗

も掲載し、1日を那珂川町で過ごせる工夫も施しました。

2. 体験型事業

那珂川町が有する様々な資源を活かして、都市住民との交流事業を企画すべく議論を重ねました。群馬県中之条町への先進地視察研修を行いました。事業実現は、平成25年度を目指します。

3. 那珂川ぷらっとクーポン事業

那珂川町の特産品や資源を活かしたサービスをお得な値段で楽しめるクーポンを100部発行し、何度も町を訪れていただける仕組みづくりを行いました。発売当初は認知度不足もあり、なかなか売れ行きがかんばしくなかったのですが、新聞やラジオ（RADIO BERRY）で広報・宣伝した結果、総額50万円分を用意していたクーポンは完売し、利用率も98%を越え、一定の成果を得ることができました。

事業を進める上での工夫

協議を進めるにあたり、個々で活動してきた各団体が、プラットフォーム構成団体になることで、関係性が深まり、それぞれが持つノウハウや知恵を持ち寄ることができました。

事業の成果と活用

多様な主体によるプラットフォームを形成し、「那珂川町の交流人口の増加に向けて」と

いうテーマについて、事業を企画し実施してきました。那珂川ぷらっとクーポンは、町内のおみやげ品やサービスに利用でき、限定100セットは完売し、町外の人に那珂川町をPRすることができました。花と蕎麦のパンフレット「花めぐり蕎麦めぐり」作成事業では、那珂川町が誇る花や山野草と、特産品の八溝蕎麦を同時に紹介した画期的なパンフレットを作成し、花処や蕎麦処、道の駅等に配置することで、町内観光資源のネットワークの強化が図れました。

本事業の目標である平成23年比で観光客入込数5%増はまだ集計されていないため分からないものの、那珂川ぷらっとクーポンと花と蕎麦のパンフレット「花めぐり蕎麦めぐり」による集客は相当数ありました。

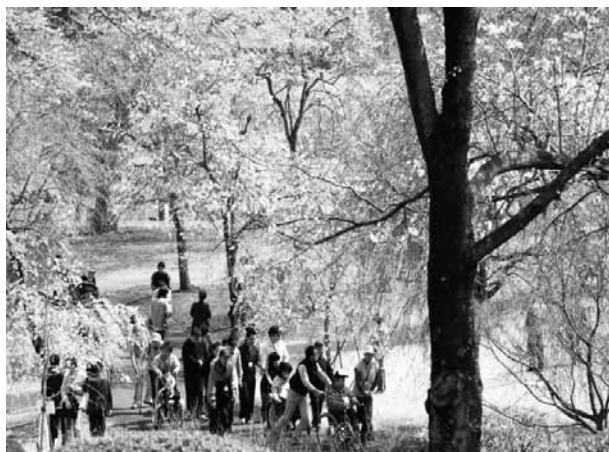
また、本事業を通じて、各団体の活動意欲は増し、プラットフォームの基本である、まずは自分たちの活動をしっかりすることの大切さを改めて認識できました。参画団体は一律に本事業を高評価しており、町としても、引き続き多様な主体による協議の場を創出し、課題解決に向け、住民と連携しながら継続的に支援していきます。

■問合せ先：那珂川町企画財政課

- ・住所：〒324-0692 栃木県那須郡那珂川町馬頭409
- ・電話：0287-92-1114

とちぎの農村景観と食文化を素材とする ルーラルツーリズムの基盤づくりと実践策

とちぎ協働デザインリーグ × 栃木県



モニターツアーの対象地・都賀の里

事業目的

本事業は、豊かな田園風景と食文化に恵まれた栃木県の特徴を組み合わせることにより、新たなルーラルツーリズム（農業体験や農村滞在を楽しむ旅）の魅力を県内外に発信するための基盤づくりと実践策を提案することを目的としました。

実施までの経緯

本事業のきっかけとなった「とちぎのふるさと田園風景百選」事業は平成22年度から実施されました。その中で、当事業の実行委員会及び選定委員会から、百選事業の効果をどのように波及させていくのかという意見がありました。そこで、本事業では先行して選定されていた「とちぎ食の回廊」を重ね合わせたルーラルツーリズムの実践策を、県農村

■実施期間

平成24年1月～平成25年3月

■事業費：5,000千円

■プラットフォーム構成機関（団体名等）

とちぎ協働デザインリーグ、NPO法人ふるさと、NPO法人とちぎグリーンエージェント、宇都宮大学工学部建築計画研究室、栃木県（農村振興課）

振興課と協働で検討することにしました。また、とちぎ協働デザインリーグは、県内NPO等の活動支援をミッションとしていることから、本事業の主旨に沿う活動をしているNPO法人2団体との協働も図ることとしました。

具体的な事業内容

1. 農村景観と食文化を素材とするルーラルツーリズムの検討

- (1) 「とちぎ食の回廊」と「とちぎのふるさと田園風景百選」を重ね合わせた県域レベルのマッピング→レイヤードマップ（重ね合わせ地図）の作成
- (2) ルーラルツーリズムに関する広報戦略の現状と課題把握
- (3) 地域別、季節別のルート作成
- (4) 公共交通の利便性把握
- (5) 「田園風景と食文化を育むとちぎの里め

ぐりモニター会議」を設置、モデル事例地区について評価の機会を設けました。

2. モデル事例地区におけるルーラルツーリズムの実践策の検討

- (1) 栃木県「美しい田園風景協働保全支援事業」の採択地区に関する情報収集
- (2) モデル事例地区調査とルーラルツーリズムの提案
- (3) ルーラルツーリズムの先進事例調査

- 長野県東御市海野宿一伝統的宿場景観
- 長野県伊那市一住民主体の農村景観形成
- 長野県小布施町一景観まちづくりのモデル
- 三重県伊勢市横輪一山里の食と風景形成

3. フォーラム「田園風景と食文化を育むとちぎの里めぐり」の開催

田園風景についての講演、NPO によるツーリズム実践報告を行いました。

事業を進める上での工夫

- 本事業のテーマに関連する既存情報をもれなく収集し、事業の成果に反映させること。
- 県行政担当、関連 NPO、モデル調査地区、モニターツアー対象地区等との連携・協働を促進するように努めること。
- モニター会議にワークショップ方式を採り入れ、参加者の率直な意見を引き出すこと。
- 「とちぎの田園風景写真コンテスト」事業の成果をフォーラムにも活かすようにすること。

事業の成果と活用

- 食の回廊と関連情報及び田園風景百選認定地の情報を 1 つに重ね合わせることで、地域別・季節別の選択を容易にしました。
- 「とちぎの里めぐり」に関する広報の現状と課題把握（新聞、ラジオ・テレビ取材等）を行い、多様な関連情報の整理をしました。
- 11 の地域別にバス停留所を記載した地図を作成して、田園風景百選認定地等へ行きやすくする工夫をしました。
- モニターツアーとワークショップを開催して、利用者の立場での食と風景についての感想を整理することができました。
- 2 年にわたる本事業の総括として、前記フォーラム」を実施しました。（参加約 80 名）

これからの課題は以下のとおりです。

- 食と風景に関連する情報は多様ですが、個別化されており、これらをネットワーク化によりルーラルツーリズムの効果をさらに向上させます。
- 歩くこと（エコツアー）を原則とする小範囲の里めぐりルートを数多く提供します。地域を訪れるひと（ゲスト、ビジター）をもてなす側（ホスト、地元）のホスピタリティ（接遇）の質を高めます。

■問合せ先：とちぎ協働デザインリーグ

- 住 所：〒320-0032 栃木県宇都宮市昭和2-2-7 とちぎボランティアNPOセンター内
- 電 話：028-623-3455

とちぎの食と景観を活かした地域づくり

まんま共和国 × 栃木県



行ってみよう！食べてみよう！「とちぎ食の回廊」と「とちぎのふるさと田園風景百選」フェアの様子

事業目的

本事業では、県内に10箇所ある各食の街道への誘客促進や、県内農村地域の魅力の一層の周知を図り、地域住民の「とちぎ食の回廊」や「とちぎのふるさと田園風景百選」に対する認知度を高めることを目的としました。

実施までの経緯

関係団体、関係機関先、担当者への個別ヒアリングから、「とちぎ食の回廊」や「とちぎのふるさと田園風景百選」に対する地域住民の認知度向上に伴った、各食の街道へ誘客促進への課題を把握し、事業を企画しました。

具体的な事業内容

1. 県都におけるイベント“行ってみよう！食べてみよう！「とちぎ食の回廊」と

■実施期間

平成24年10月～平成24年12月

■事業費：3,028千円

■プラットフォーム構成機関（団体名等）

まんま共和国、食の街道協議会のメンバーにより構成される団体（宇都宮餃子ベジフル街道、日光例幣使そば街道、いい芳賀いちご夢街道、とちぎ渡良瀬いちご・フルーツ街道、歴史とロマンのかんぴょう街道、たかはら山麓水街道、八溝そば街道、那須高原ミルク街道、那珂川あゆ街道、足利佐野めんめん街道）、栃木県（農村振興課）

「とちぎのふるさと田園風景百選」フェア”の開催

平成24年11月11日に宇都宮市オリオン通り市民広場にて“行ってみよう！食べてみよう！「とちぎ食の回廊」と「とちぎのふるさと田園風景百選」フェア”を開催しました。当日は、県内10の食の街道の特産品展示販売やとちぎのふるさと田園風景百選パンフレットの配布、大型映像装置による食の街道や田園風景百選の紹介映像の放映等々を行いました。開催の様子は映像で収録し、その後、イベント実施状況記録として編集・保存版DVDを20枚制作しました。

同フェア開催にあたっては、県内各食の街道協議会の事務局・担当者へのヒアリング等を実施しました。また、田園風景百選のオリジナルTシャツや各種映像コンテンツ、事前告知用リーフレット（5,000枚）を作成しま

した。さらには、東京スカイツリーや浅草駅、池袋駅、大宮駅、柏駅、新越谷駅、横浜市役所前に設置されている映像表示機を使用したデジタルサイネージ（電子広告）による首都圏向け情報発信活動を行いました。

2. 映像コンテンツの制作

県内 10 箇所ある各食の街道と田園風景百選を併せて紹介する各街道 3 分以上の映像コンテンツを DVD として 10 枚作成しました。

3. 食の回廊 PR ブックの制作

各食の街道協議会の会員店と協働した食の回廊 PR ブックを作成しました。

事業を進める上での工夫

フェアの開催にあたっては、より多くの人々に「とちぎ食の回廊」と「とちぎのふるさと田園風景百選」の周知を図れるように、栃木県商工会連合会主催のイベント「“スー爺サンタ”の軽トラ市」等と連携し、相乗効果が得られるようにしました。

PR 手法についても、首都圏各地にある大型映像装置によるデジタルサイネージ（電子広告）を活用するなど、従来にない手法を取り入れました。また、今回の諸活動を DVD 化し、複製を容易にすることにより、多方面にわたり情報を広く発信し、情報を共有しました。さらには、すべてのデザインが異なる 102 種類のオリジナル T シャツを作成し、各食の街道協議会の構成員に配布し、それら

を各種イベント等で着用することにより、お金をかけない動く広告塔を現出し、「とちぎの田園風景」の PR 等を行いました。

このように構成団体のおのものが持っている経営資源や知恵、デジタルサイネージ（電子広告）をうまく活用することにより、お金をかけなくても、効果が出る活動を心がけました。

事業の成果と活用

「とちぎ食の回廊」と「とちぎのふるさと田園風景百選」フェアでは、集客数 4,000 余名を数え、また制作した各種映像コンテンツを会場に設置されている 210 インチ映像表示機を有効活用し、その PR 目的を十二分に果たすことができました。

また、同事業で作成された成果物の各種映像コンテンツは、栃木県や各食の街道協議会等での再利用・再加工ができるため、各種イベントでの利用はもとより HP への掲載、協議会会員への積極的利活用が図れます。

それ以外にも、街道名入りのステッカー・ミニのぼりセット・テーブル用三角柱 POP の作成配布、看板の設置、駅での DVD 放映、街道名入りのテント・大型懸垂幕の作成等を行うことにより、有効な PR ができました。

今後も、作成した PR 資材を有効に活用しながら継続的に PR 活動を行い、農村地域の活性化を図っていきたいと思います。

■問合せ先：栃木県農村振興課

- ・住所：〒320-8501 栃木県宇都宮市塙田1-1-20
- ・電話：028-623-2333

壬生町干瓢生産振興推進事業

壬生町干瓢生産流通推進協議会 × 壬生町



壬生町かんぴょう伝来 300 年記念祭の様子

事業目的

栃木県の代表的な特産品である干瓢が、当時の壬生城主である鳥居忠英により滋賀県甲賀市から正徳 2 年（1712 年）に壬生町に伝えられてから平成 24 年で 300 年を迎えたことを機に、さらなる干瓢の生産振興を図るための事業を実施しました。併せて平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故による栃木県農産物に対する風評被害からの復興を目的としました。

実施までの経緯

近年、干瓢生産を取り巻く環境は、輸入品の増加や生産者の高齢化、後継者不足等年々厳しくなっています。栃木県の代表的な特産品である干瓢が伝来して 300 年という節目を迎えるにあたり、干瓢の素晴らしさ、

■実施期間

平成23年12月～平成25年3月

■事業費：3,028千円

■プラットフォーム構成機関（団体名等）

壬生町干瓢問屋組合、壬生町農業委員会、生産者、JAしもつけ、壬生町商工会、壬生町（農政課）、栃木県（下都賀農業振興事務所）

伝統ある優れた食文化の継承を図るとともに、干瓢の生産振興を推進することとしました。

具体的な事業内容

壬生町干瓢生産流通推進協議会を活用したプラットフォームを構成し、下記事業を実施しました。

1. 壬生町かんぴょう伝来 300 年記念祭

平成 24 年 8 月 11～12 日の 2 日間にわたり、みぶハイウェーパークにて開催し、延べ約 2 万人の方にご来場いただきました。記念祭では、壬生町出身で平成 23 年から壬生町干瓢大使を務めているフォークシンガーのサトウヒロコさんのライブや、干瓢にまつわるクイズ大会、干瓢音頭保存会など、様々なステージショーを実施しました。また、機械や手カンナによる干瓢剥き体験、郷土料理の無料配布を行い、干瓢について県内外の方々に広く PR を行いました。

2. 農商工連携推進に関する講演会

講師に(株)たぐい代表取締役社長の佐藤翼氏をお招きして「農商工連携による地元農産物の利活用について」との演題で、ご講演をいただきました。

参加者からは、地元農産物の生産振興及び消費拡大による地域活性化を図るヒントを得ることができたとの声が寄せられました。

3. かんぴょう伝来 300 年記念事業

観光地域連携事業として、鬼怒川・川治温泉との共同 PR として、旅館での食事に干瓢を活用してもらい、同事業の周知を行いました。また、町のお祭り等にて干瓢を使った郷土料理の無料配布を行いました。さらにゆうがおの実を利用した新たなメニュー開発を依頼し、学校給食や料亭等にて提供しました。また、記念大会、健康福祉まつり、ゆうがおマラソン大会に大使を派遣し、干瓢伝来 300 年の PR を行いました。

他にも、干瓢伝来 300 年の記念事業の一環として「とちぎ・かんぴょう伝来 300 年記念かんぴょう料理コンテスト」を開催しました。

4. かんぴょう PR 事業

東京スカイツリーのとちまるショップにおいて、県外の方に向けて PR 活動を行いました。

また、平成 24 年 6 月 25 日「道の駅しもつけ」で行われた「とちぎ・かんぴょう伝来 300 年記念かんぴょう料理コンテスト」の入

賞作品 7 点のレシピを中心に、干瓢の保存方法などを載せたレシピ集を作成・配布し、PR 活動を行いました。

事業を進める上での工夫

普段食べている干瓢がどのように生産されているかあまり知られていないことから、干瓢剥きの生産工程を体験してもらいました。また、講演会の実施により干瓢が優れた健康食品であるとの認識を深めていただきました。

事業の成果と活用

本事業の実施により、干瓢の生産振興や消費拡大を図ることができました。また、干瓢の歴史や干瓢が栄養に優れた食品であることを再認識でき、町民の愛郷心を育てることもできました。

今後も生産者の高齢化と生産量の減少が進む中、需要拡大に向けた干瓢の新たな生産方式及び新商品開発の取組を推進し、流通等の活性化を図っていきます。

■問合せ先：壬生町農政課

・住所：〒321-0292 栃木県下都賀郡壬生町通町12-22

・電話：0282-81-1839

わがまちへの誇りと郷土愛の醸成事業

姿川地区まちづくり協議会 × 宇都宮市



副読本 「ふるさと再発見 わたしたちの姿川」

事業目的

姿川地区では、地域が目指す10年後の地域像の基本構想「姿川地区将来ビジョン」が平成23年度に策定されました。同ビジョンを進めるにあたり、「まちづくり」を自然や歴史、安心・安全など6つの分野に分け、それぞれの分野でプラットフォームを構築し、地域の特色あるまちづくり事業を展開しています。本事業では同地区に多数存在しながらも十分に周知されていない歴史的文化財や、ゆかりのある文化人などの貴重な地域資源を、住民に広く発信することによって、地域への誇りや郷土愛の醸成を図ることを目的としました。また併せて、地域での共通の話題を提供することにより、世代を超え、同ビジョンに掲げたアイデンティティのひとつ「自然と歴史を大切にし、新しい文化を創造する住みやすいまちづくり」に寄与することも目的と

■実施期間

平成23年9月～平成25年3月

■事業費：1,210千円

■プラットフォーム構成機関（団体名等）

姿川地区まちづくり協議会、姿川地区歴史と文化の会、姿川中央小学校、姿川第一小学校、姿川第二小学校、新田小学校、宇都宮市、(有)正栄社印刷所

しました。

実施までの経緯

姿川地区には貴重な歴史・文化的な地域資源が存在していますが、地域住民には十分に認知されているとは言えないことから、地区内の発掘調査などの成果を一堂に集めた展示会や講演会を開催し、さらには地域の歴史的文化財などの地域資源の紹介のほか、サイクリングマップなども取り入れたガイドブックを作成することとしました。また、小学生向け副読本を作成し、地域住民の方々に広く発信していくこととしました。

具体的な事業内容

地域の方々や地元の学校関係者と協働し、姿川地区の学校の教材副読本や歴史文化財ガイドを作成し、あらゆる世代での郷土愛の醸成を図りました。また、地区内の小中学校の

協力をいただき、校外学習の際に歴史文化財への散策を組み入れ、実際に触れる機会の創出を図りました。

1. 小学生向け副読本

小学校の総合学習用のテキストとしてや土曜講座、授業や子ども会の行事において活用してもらうことを目的に、学校と地区が協働して、姿川地区内の歴史文化財やゆかりのある人物を盛り込んだ小学生向け副読本「ふるさと再発見 私たちの姿川」を1500冊作成し、同地区小学校4年生以上の児童に配布しました。制作にあたり、子どもたちに自分たちで姿川地区について調べる意欲を持たせることができるよう、易しい言葉を使うとともに、写真や図表などを多く取り入れ視覚的にわかりやすくする工夫をしました。

副読本を制作する過程で資源の洗い出しなどを行った結果、改めて編集メンバーも貴重な歴史文化的な地域資源について知識を深めることができました。

2. ガイドブック（姿川さんぽ）



同地区の広報発信を目的に、各種イベントなどでも活用できるガイドブックを作成しました。作成にあたって同地区内の歴史文化財

をコースに取り入れたウォーキングマップなど、多角的に興味関心を高める内容を盛り込む工夫をしました。

3. 歴史展の開催

地区内の歴史を知るきっかけとすることを目的に、平成23年度は「掘り出された姿川の歴史展」と「記念講演会」、平成24年度は「姿川の川上澄生と村の版画展」を開催しました。

事業を進める上での工夫

ガイドブックと小学生向け副読本を編集するにあたり「姿川地区歴史と文化の会」の会員をそれぞれ専門分野に分けました。ガイドブックについては、地域の文化財ボランティアの方を中心に、小学生向け副読本については、地区内の学校教員を中心とした編集委員会を結成し、作成にあたりました。

事業の成果と活用

本事業の実施により、地域住民に、改めて「ふるさと」への誇りと愛着を再認識していただく機会となりました。特に子どもたちの郷土愛を育む機会ともなりました。今後も、本事業で作成したガイドブックや副読本を活用し、「姿川地区将来ビジョン」の達成に向けて努力していきたいと思っております。

■問合せ先：姿川地区まちづくり協議会（姿川地区歴史と文化の会）

・住所：〒321-0151 栃木県宇都宮市西川田町805-1（姿川地区市民センター内）

・電話：028-658-1594

新市の一体感の醸成

NPO法人ハイジ × 栃木市



渡良瀬遊水地を巡っている様子

事業目的

市町合併後の新市においては、それぞれの地域の特徴や資源を各地域住民が知ることが重要です。新市の一体感の醸成に向け、各地域の資源を再発見できる交流事業等を実施しました。また、市民自らが栃木市全域の名所旧跡を再発見することにより、郷土の素晴らしさを市内外にアピールできるよう、観光大使の育成を図りました。

実施までの経緯

NPO 法人ハイジ理事会で、「市民が合併してよかったと思える栃木市にするには、どうしたらよいか」を話し合いました。以前、「ネットワークとちぎ」が、平成 22 年に栃木県の委託事業「NPO・ボランティア理解促進事業」で、合併した各地域の地元の方に案内人

■実施期間

平成23年9月～平成25年3月

■事業費：1,214千円

■プラットフォーム構成機関（団体名等）

NPO法人ハイジ、TOSS下野教育サークル、栃木市観光ボランティア協会、大平町観光案内ボランティアの会、とちぎアマチュアビデオライブラリー、NPO法人ふるさと、西方町文化財愛護ボランティア、ネットワークとちぎ、ケーブルテレビ(株)、栃木市（地域まちづくり課）

をお願いし、参加者と一緒にウォーキングをするイベントを行っており、これを参考にしました。その地域の自然、景観、歴史、文化に触れ、魅力ある地域資源を活かしたまちづくりをしたいと思い、栃木市地域まちづくり課へ相談しました。

また、TOSS 下野教育サークルの「子ども観光大使事業」の企画もあり、大人向けと子ども向けの両方を実施することとなりました。

具体的な事業内容

NPO 法人ハイジと栃木市を中心に、多様な主体によるプラットフォームを構成し、新栃木市の一体感の醸成という地域課題を解決するための協働事業を企画し、NPO 等への委託等により実施しました。

1. 栃木のとちぎ交流事業

公募による延べ 145 名の参加者により、

栃木市内の名所旧跡を巡る交流事業を6回にわたり実施しました。

2. 栃木のとちぎ交流事業映像記録撮影事業

「栃木のとちぎ交流事業」において、名所旧跡及び交流の様子を撮影しました。

3. 新栃木市記録映像編集事業

NPOが撮影した「栃木のとちぎ交流事業」の記録映像の編集作業を行いました。

4. めざせ！とちぎふるさと子ども観光大使事業

公募による延べ222名の小学生の参加者により、栃木市内の名所旧跡等を巡る7回にわたる講座を実施しました。その結果、栃木市子ども観光大使41名が認定されました。

5. 協働事業の評価

協働事業の評価をするため、プラットフォーム会議を開催し、協働の評価と次年度以降の取組を協議しました。

事業を進める上での工夫

プラットフォームの構成メンバーは、栃木市各地域で活躍している方をお願いし、会議の場所も各地域で行いました。また、事業企画案をメンバーそれぞれが立案し、会議で情報の共有を図りました。「栃木のとちぎ交流事業」は、1回ごと担当制にし、当日の運営、案内人等への連絡調整等はメンバーが行いました。「子ども観光大使事業」は、TOSS 下野教育サークルが各地域の担当と一緒に当日

の運営を担いました。

事業の成果と活用

「栃木のとちぎ交流事業」と「子ども観光大使事業」の参加者には、これまで交流のなかった地域の人達、子どもたち同士で交流を図っていただきました。そして、自分たちの住んでいる栃木市に誇りを持ち、積極的に栃木市の素晴らしさを発信することの大切さを知っていただきました。各地域のプラットフォームメンバー同士の交流も図ることができ、事業を継続する際の協力体制が整いました。今後も様々な形での協働事業が期待できます。また、「栃木のとちぎ交流事業」の記録映像は、栃木市の良さを再発見してもらうため、とちぎ市民活動推進センターのイベントや、とちぎ協働まつり、各地域のイベント等で放映します。「子ども観光大使事業」については、多くの子どもたちに栃木市の良さを知らせてもらえ、他の小学校の子どもたち同士が交流をもつことができました。

今後も事業を継続し、地域の魅力を発見・発信できる人を育て、観光に貢献するとともに、地域の人たちが自然に交流し、合併してよかったと思えるようにしていきたいと思えます。また、小学生の頃から地域資源に気づいてもらうことで、郷土愛を育てていきたいと思えます。

■問合せ先：NPO法人ハイジ（とちぎ市民活動推進センターくらの指定管理者）

・所在地：〒328-0043 栃木県栃木市境町19-3（とちぎ市民活動推進センター内）

・電話：0282-20-7131

下野市の文化保護活用事業

下野薬師寺ボランティアの会 × 下野市



下野市史跡まつりでの餅つきの様子

事業目的

下野薬師寺周辺については、近隣に「道の駅しもつけ」がオープンしたことなどに伴い、市内外の交流人口が増加し、地域観光資源としてより一層の活用が望まれています。そのため、下野薬師寺を中心とする地域の文化財を観光資源としてより一層活用するため、既存イベントの充実や施設設備の充実を図りました。また、地域の歴史や自然に触れる機会を設け、郷土愛や文化財保護の精神を養うことを目的として、史跡まつりのプレイベントを開催しました。史跡まつりは、前年比10%増を目指しました。

実施までの経緯

下野薬師寺跡を中心とした事業は、今まで下野薬師寺ボランティアの会が中心となり単独で実施してきました。今回は下野薬師寺を

■実施期間

平成24年7月～平成25年3月

■事業費：1,114千円

■プラットフォーム構成機関（団体名等）

下野薬師寺ボランティアの会、下野市観光ガイドボランティアの会、南河内歴史研究会、しもつけ市を元気にする会、木を知ろう森を知ろう会、下野市教育委員会（文化課、歴史館）、下野市（総合政策課）

はじめ市内にある文化財活用事業ということで、市内で活動する歴史などに関係があるボランティア団体に協力を求めプラットフォームを設置しました。市内にある文化財の活用というテーマでプラットフォームを設置したため、前向きな検討ができました。

具体的な事業内容

下野薬師寺ボランティアの会と下野市を中心に、多様な主体によるプラットフォームを構成しました。下野市薬師寺地域の文化保護と活用という地域課題を解決するため、プラットフォームにおいて協働事業を企画し、ボランティア団体等との協働により実施しました。

1. 史跡まつりイベント支援

下野薬師寺跡で開催している史跡まつりに対する支援、雅楽等のイベントの補助を行いました。

2. 講演会の開催等に伴う支援

下野市の歴史に関する啓発のため、下野薬師寺関連の講演会を開催しました。

3. 情報発信

下野市薬師寺周辺のグリーンマップや樹木のプレートを作成し、歴史ばかりではなく自然にも親しんでもらいました。

4. 歴史館支援（来館者案内・体験事業用備品購入）

プロジェクター・スクリーン・餅つき機・缶バッジ制作キットを購入しました。

5. 事業企画の検討に伴う補助

先進地(房総の村)で研修を実施しました。

事業を進める上での工夫

企画した事業を実施する際に皆で協力した事業展開ができるよう、それぞれの団体に役割分担をして行いました。また、文化財だけではなく自然環境などを活かした取組も行いました。

事業の成果と活用

史跡まつりでは、一昨年オープンした道の駅しもつけの研修室を活用し、プレイベントとして午前中は二胡の演奏会・午後は下野薬師寺についての講演会を開催し、それぞれ定員の150名が集まり盛大に開催できました。また、史跡まつりでは来場者が1,300人を数え、前年に比べ20%増えました。また、

プレイベントを含めると前年に比べ30%以上来場者が増加し、大きな成果がありました。

本事業終了後も下野薬師寺歴史館や下野薬師寺ボランティアの会を中心としたイベント等が企画されていますが、プラットフォームで集まったメンバーとも協働で事業を開催していきたいと思います。

今後は下野薬師寺跡だけではなく、他の史跡とゆかりのある団体などにも働きかけ、学校や地域と連携し協働で活用を図ってきたいと思います。その手始めとして、下野国分寺跡が平成25年度で史跡整備終了のため、今回作成した樹木マップを下野国分寺周辺地域においても作成するなど、史跡と自然環境を活かした活用を幅広い地域で行ってきたいと思います。



下野薬師寺周辺樹木マップ

■問合せ先：下野市文化課

- ・住所：〒329-0511 栃木県下野市石橋552-4
- ・電話：0285-52-1120

「はにしの里」歴史遺産保護事業

はにしの里自然塾 × 壬生町



先進地視察の様子

事業目的

「はにしの里」と称される羽生田地区には、古代下毛野国を代表する多くの古墳が築かれています。しかし、地元住民には意外と知られていないのが現状でした。そこで、地元住民の方に「はにしの里」の歴史を知っていただき、そのうえで史跡等の環境整備を行い、住民が気軽に地域の文化遺産に触れることができる機会を創出するとともに、当該地域の活性化を図ることを目的としました。

実施までの経緯

以前より、町教育委員会では、町内全域の史跡（指定を受けた古墳）について、古墳の環境整備を進めていました。しかし、羽生田地区のみ実施されない状況にあり、見学者から草が生い茂り古墳が見学できない等の苦情が寄せられていました。また、同地区の古墳

■実施期間

平成24年9月～平成25年3月

■事業費：1,201千円

■プラットフォーム構成機関（団体名等）

はにしの里自然塾、夢・はにしの里協議会、みぶ埴輪会、壬生町文化財保護審議会、壬生町（歴史民俗資料館）

は、近年の発掘調査により、「国内最大級の家形埴輪」等が出土したことから、関東近県より大型バス等で訪れる団体も多くなりました。過去に他県からきた見学バスが脱輪するなどの事故があったため、古墳の環境整備、古墳への案内道標の整備、駐車場の確保など、早急に整備する必要性がありました。

具体的な事業内容

設置準備段階において古墳の解説・見学会等を行い、地元の歴史遺産に関する再認識の機会としました。古墳の環境整備、古墳道標及び案内板の整備、歴史講座等をはにしの里自然塾が主体となり実施しました。

1. 古墳環境整備事業

- 桃花原古墳下草刈り作業【計2回、参加者延べ41名】
- 富士山古墳下草刈り作業【計2回、参加者延べ22名】



下草刈り作業の様子

2. 文化財案内板整備事業

- 古墳案内の道標の修繕作業【計3回、参加者延べ16名】
- 「はにしの里」古墳群案内板の設置作業【1回、参加者11名】
- 古墳解説書収納箱の設置作業【1回、参加者10名】

3. 「はにしの里」歴史講座の開催

- 埴輪作り教室の開催【参加者22名】
- 羽生田地区古墳出土資料の見学会の開催【参加者9名】
- 古墳出土資料の見学

事業を進める上での工夫

羽生田地区の住民は、自分たちのふるさとにある古墳について、興味はあるが、古墳の実態、さらには歴史的遺産としての価値についてはあまり知らない状況にありました。そこで、最初に、群馬県高崎市にある当時の姿に復元された古墳へ見学に出向くことで、羽生田地区にも想像を絶する壮大な古墳が存在

していたことを再認識することができました。また、埴輪作りや古墳からの出土品の見学を通して古墳に対する関心を深めました。

はにしの里自然塾及び壬生埴輪会は、古墳説明会や先進地域の古墳の整備状況を見学したことにより、地元に残る歴史遺産が全国レベルの文化財であることを認識することができました。また研修会等をとおり、地域の人々がふるさとの歴史的遺産を大切に、後世に引き継ごうとする意識が芽生えました。

事業の成果と活用

以前より、地域住民においても、地元の古墳をきれいにしたいという願望はありましたが、なかなか実行できませんでした。本事業を契機に、地元の有志が中心となり、各団体が、結束し実行することができたことが大きな成果といえます。

また、インターネット上などの口コミサイトでは、管理が行き届かない古墳として、不名誉な紹介がなされてきました。本事業により、古墳の草刈り、古墳案内道標の修繕、整備、古墳解説案内箱の設置等を行っていく予定です。

■問合せ先：壬生町生涯学習課 歴史民俗資料館

・住所：〒321-0292 栃木県下都賀郡壬生町通町12-22

・電話：0282-82-8544

懐かしい“ふるさととちぎ”回想事業

下野民俗研究会 × 栃木県



懐かしい”ふるさととちぎ”回想展の様子

事業目的

本事業は県民文化の更なる振興とともに、県民が“ふるさととちぎ”への愛着を深め、誇りと自信を持って郷土づくりに取り組めるよう、意識の高揚を図ること目的とします。

実施までの経緯

時の流れの中で、未来に継承すべき文化的価値のある品々が、適切に管理されず散逸・廃棄されているケースが発生しており、文化振興の観点から大変な損失になっています。一方、本県は歴史・伝統・文化・産業と実力がありながらも全国的な認知度はとても低く「無名実力県」と指摘されています。これを払拭するためには、県民各々が本県の魅力を再認識し、情報発信していくことが大切です。そこで、昔懐かしい品々を活用した文化事業を通じ、県民が先人たちの築いてきた郷土へ

■実施期間

平成24年9月～平成25年3月

■事業費：3,000千円

■プラットフォーム構成機関（団体名等）

下野民俗研究会、宇都宮メディアアーツ専門学校、随想舎、下野新聞社、那須塩原市（那須野が原博物館）、栃木県（総合政策課、県民文化課、美術館、博物館）、栃木県教育委員会（文化財課、文書館）

の愛着を深め、誇りと自信を持って今後の郷土づくりに活かせるよう意識の高揚を図ることはできないかと考えました。

具体的な事業内容

1. 懐かしい”ふるさととちぎ”回想展の開催

平成25年2月16日から3月17日まで、県庁舎内3会場で開催され、期間中合わせて28,231名が来場しました。写真、絵はがき、ポスター・チラシ、レコード、看板等が展示された会場に多くの方が訪れ、県庁の理解・認知度を高めるきっかけにもなりました。

2. 記念催事「昭和の集い」の開催

平成25年2月23日に開催し、137名の方にご参加頂きました。第一部の「昭和の遊びに挑戦」では、コマを回す高齢者の元気な姿がとても印象的でした。また、おじいちゃんとお孫さんが、福笑いに興じる様子が地元紙に取り上げられ、大きな反響があり

ました。第二部前半の「昭和を懐かしむ」では、郷土史に精通する方々から、戦中・戦後の様々な思い出話が語られました。来場者からは「郷土への理解を深められ、未来に向けて活かしていこうと思った」との声が寄せられました。後半の「昭和を歌おう」では、地元の歌手・楽団との昭和メロディの合唱等により、活気に満ちた時代を懐かしみ、元気を出してもらおうとの企画でした。また、アンコールで合唱した「県民の歌」に「県民としての誇り」を感じたとの声も寄せられました。

3. ふるさと回想リレー講座の開催

「とちぎの歴史的一幕」をテーマに博物館や美術館等の専門家による映像を交えた講座を全4回開催し、延べ157名が受講しました。受講者からは「知らなかったことが多く大変良かった」等の声が寄せられました。

4. 懐かしい品々のデータベース化

平成24年11月15日から約1ヶ月間を募集期間とし、県民から懐かしい品々を募り、42名の方々から676点の懐かしい品々が寄せられました。これらをデータ化し、県内博物館等と情報共有を図りました。

事業を進める上での工夫

プラットフォームのメンバーは、ノウハウや人脈の活用を目的に、本県の民俗・文化・芸術分野の第一線で活躍中の方々にお願いしました。会議進行にあたっては、そのテーマ

について「何を知っているか」「何ができるか」を導きながら議論を展開していきました。そのため話題も広がり、企画に厚みが増し、協働の醍醐味を感じることができました。また、事業企画に際しては、「県民参加型」という点にこだわりました。具体的には、県民からお借りしたものを展示することとし、単なる展示会にとどまらぬよう、それらの品々にまつわる思い出・エピソードをコメントいただくよう心がけたり、展示会場での解説員として、地元のボランティア団体に協力を求めました。

事業の成果と活用

本事業は短期間での運営となりましたが、アンケートでも「貴重な品々を大切に保存してほしい」等の声が寄せられ、企画した趣旨も伝わり一定の成果が得られました。特に次回開催を望む声が多く、想像以上に昔を懐かしみたいというニーズがあることを把握できました。今後は本事業をより生活に身近な市町単位で実施することにより、歴史・文化を共有する住民の間の絆も深まり、更なる地域活性化につながるものと期待できます。

下野民俗研究会は、各市町の民俗・歴史資料館や博物館の関係者が多く会員となっており、本事業で得られたノウハウを会員間で共有し、各地域で取り組む際には、その地域の社会資源を活用し、多様な主体と連携を図りながら、支援を行っていききたいとのことです。

■問合せ先：栃木県県民文化課

- ・住所：〒320-8501 栃木県宇都宮市塙田1-1-20
- ・電話：028-623-3422